

決算説明資料

2020年3月期 第4四半期

インヴァスト証券株式会社

四半期決算概要 (2020.1~3)

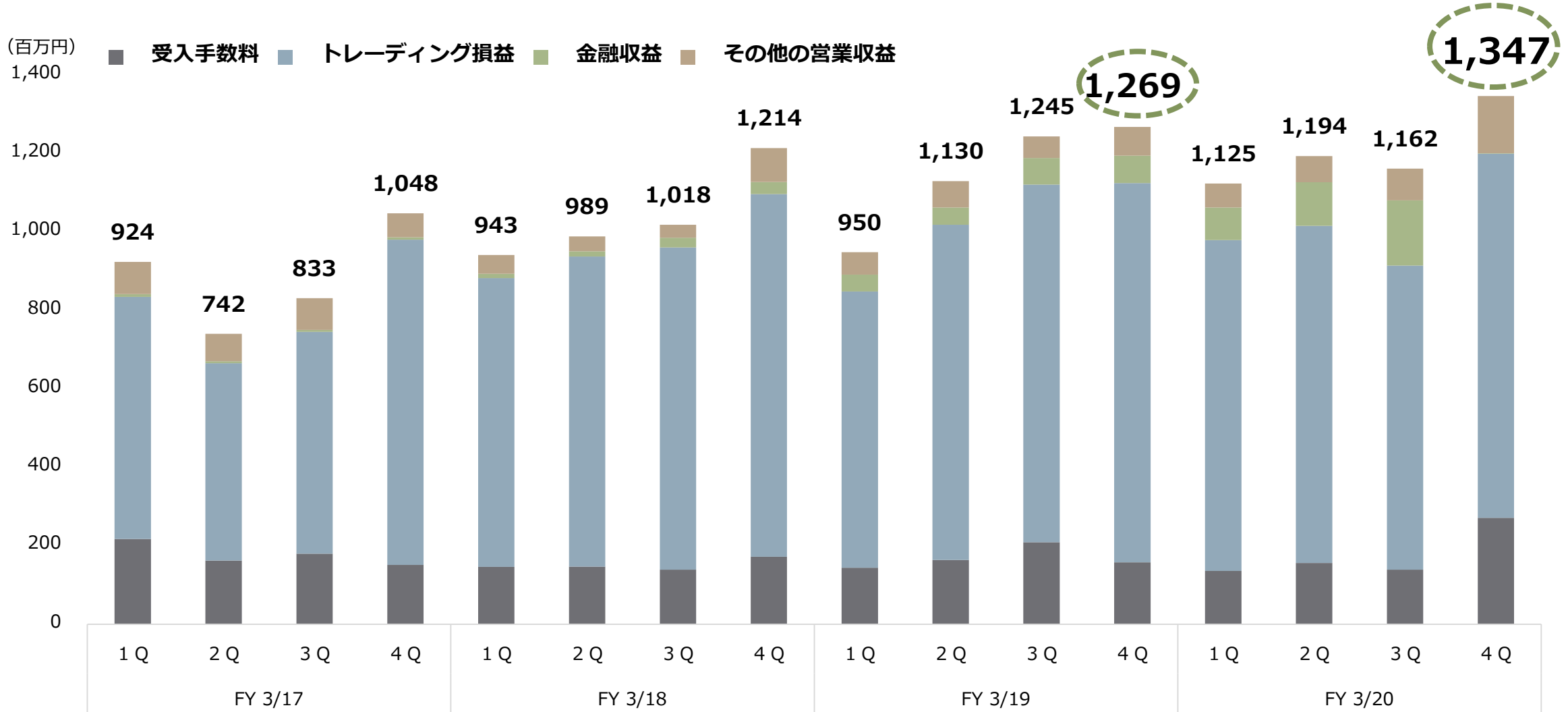
第4四半期決算 業績サマリー

単位：百万円	2019年3月期 4 Q (2019.1-3)	2020年3月期 4 Q (2020.1-3)	対前年同期 増減率
営業収益	1,269	1,347	+6.1%
純営業収益	1,233	1,349	+9.4%
営業利益	204	249	+22.2%
経常利益	184	261	+41.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	123	155	+26.5%

営業収益の内訳

営業収益は、前年同期比+6.1%の13億47百万円

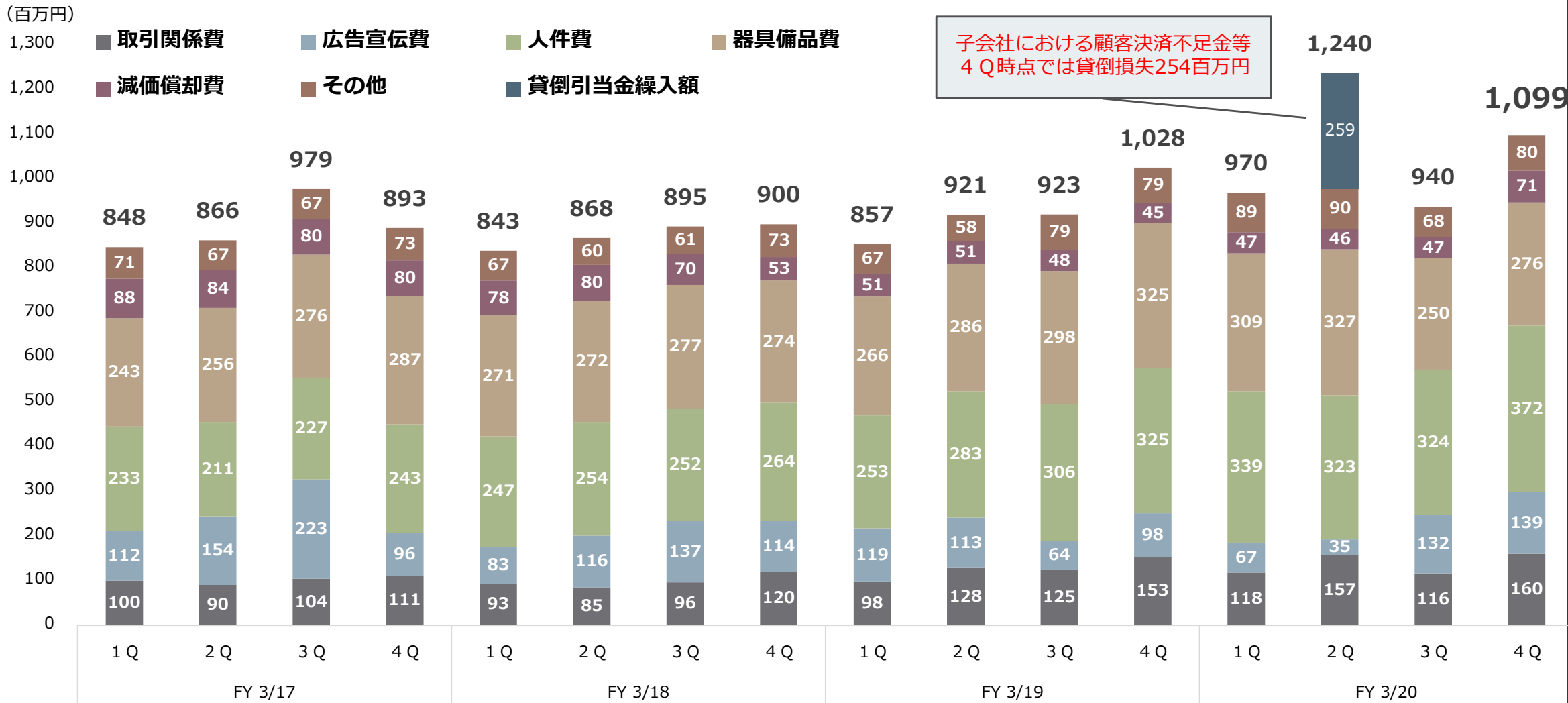
受入手数料が同+71.3%の2億71百万円、トレーディング損益が同△4.0%の9億28百万円



販売費・一般管理費の内訳

販売費・一般管理費は、前年同期比+6.9%の10億99百万円

広告宣伝費が同+41.6%、人件費が同+14.5%、減価償却費が+55.3%、器具備品費は同△15.3%

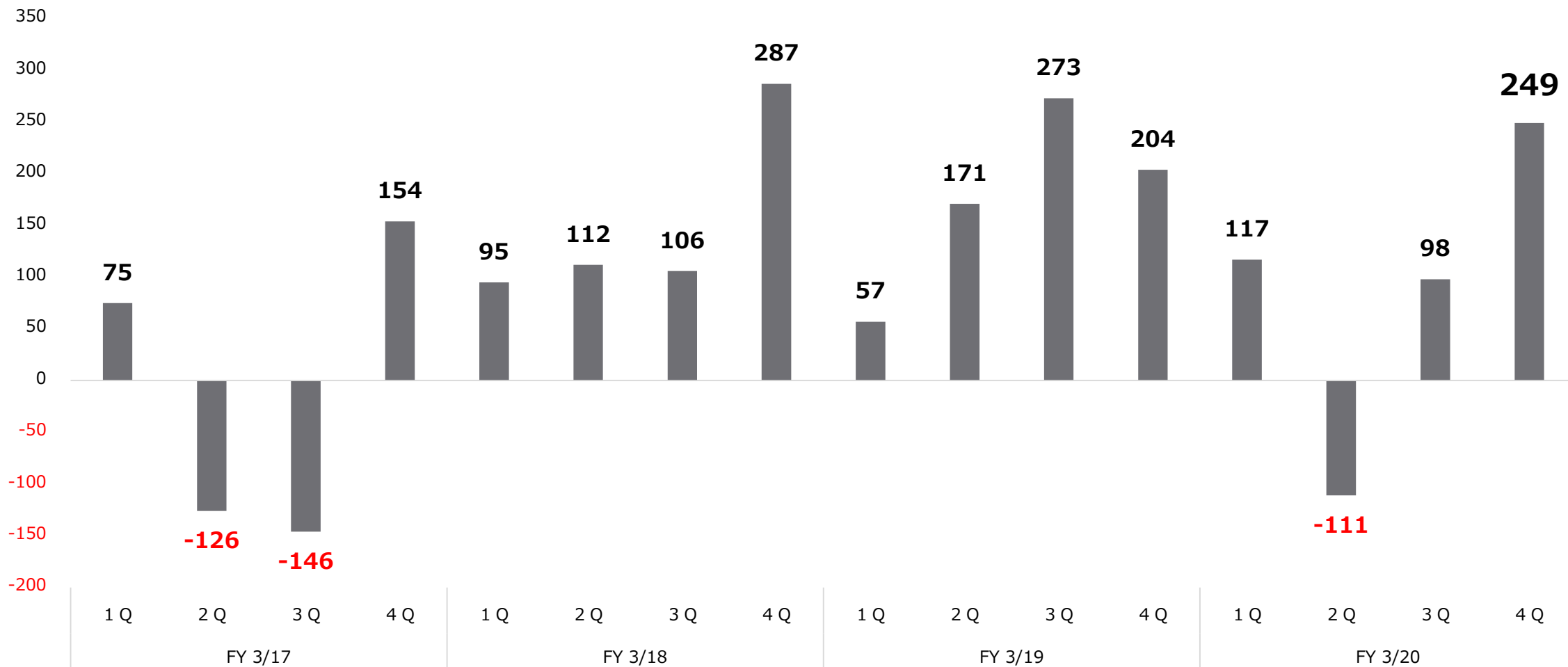


営業利益推移

営業利益は、前年同期比+22.2%の2億49百万円

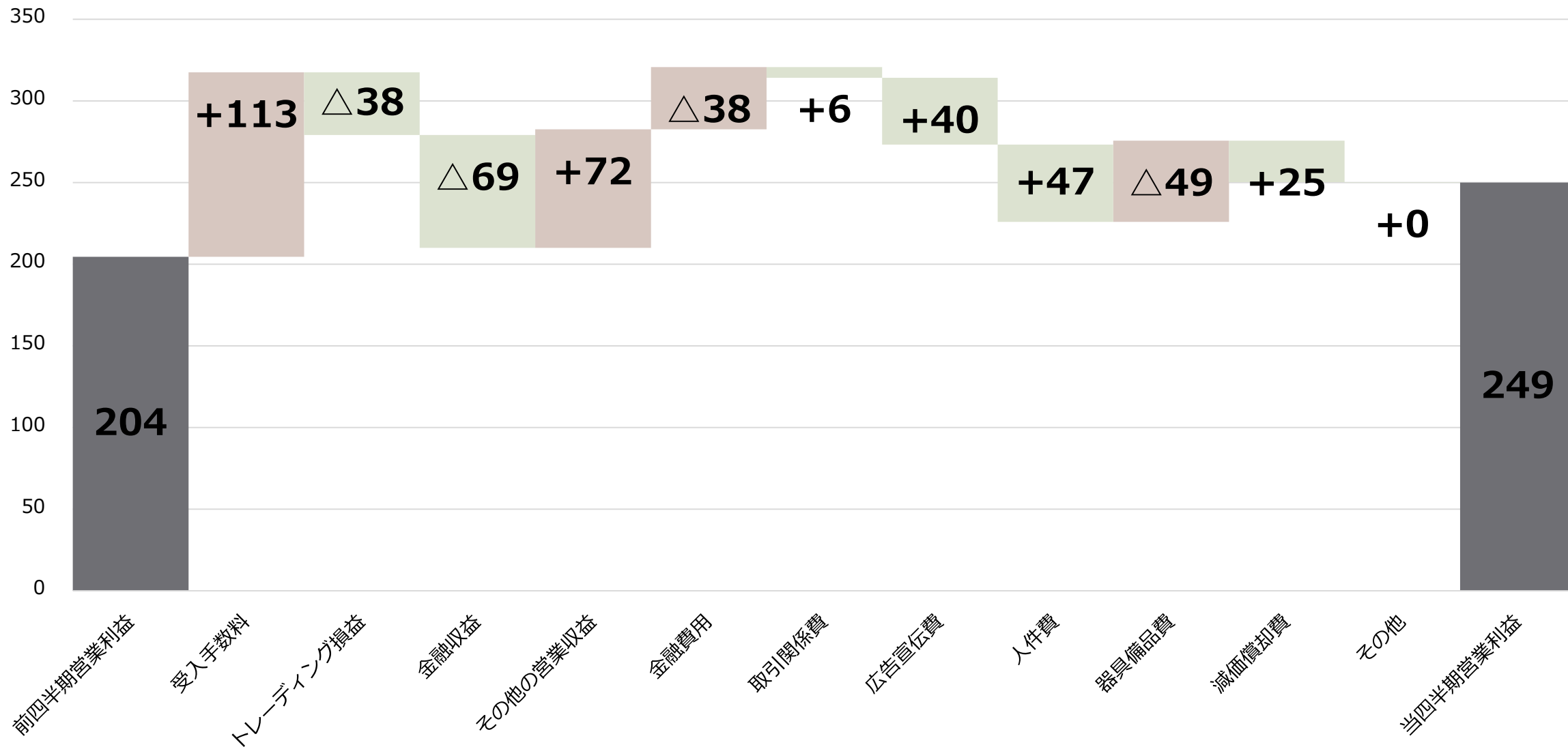
3月の相場乱高下の影響により、FXの取引量が急増したことが要因

(百万円)



営業利益増減（前年1-3月比）

(百万円)



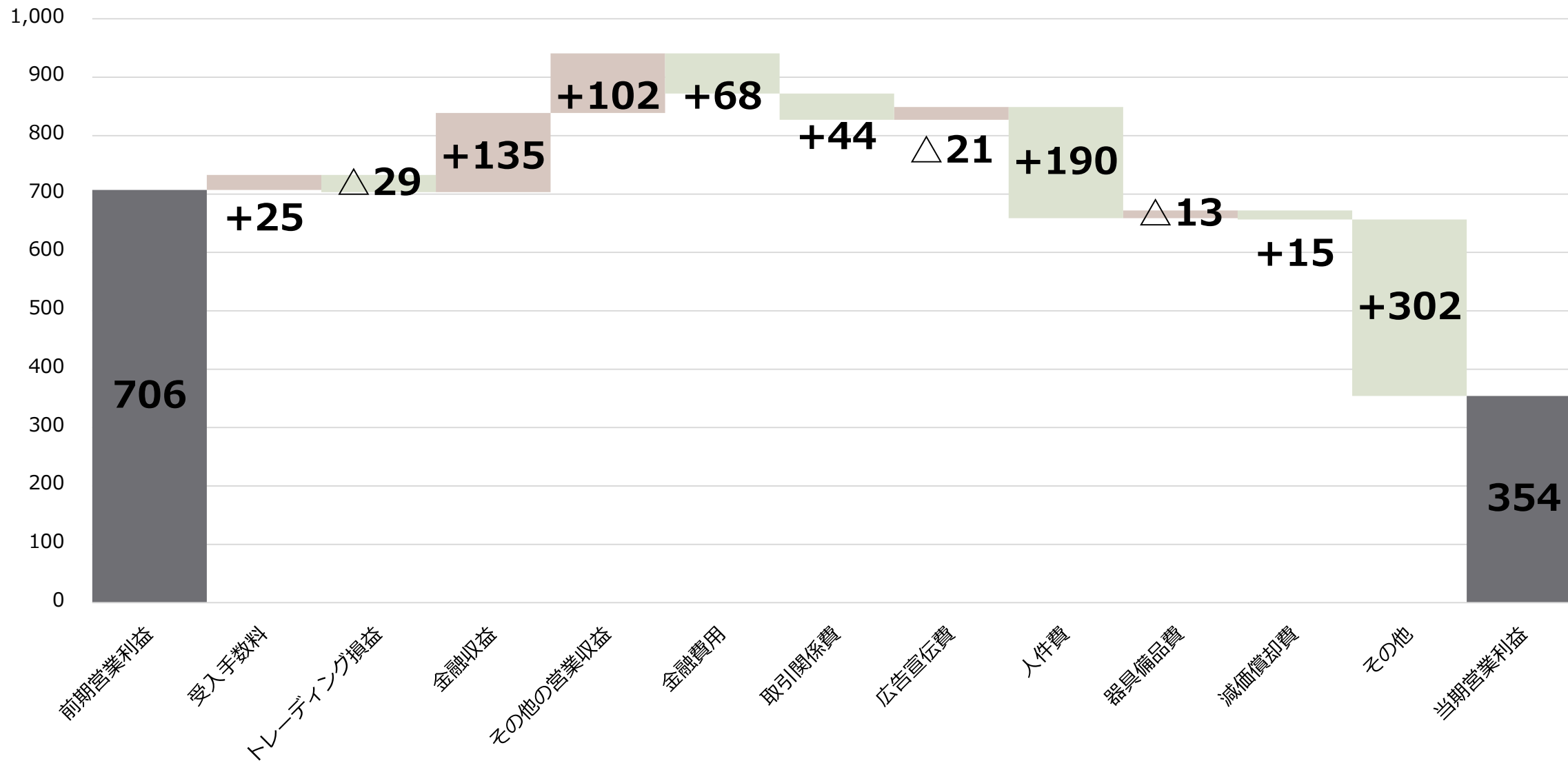
通期決算概要 (2019.4~2020.3)

通期決算 業績サマリー

単位：百万円	2019年3月期 4 Q (2018.4-2019.3)	2020年3月期 4 Q (2019.4-2020.3)	対前年同期 増減率
営業収益	4,595	4,829	+5.1%
純営業収益	4,439	4,604	+3.7%
営業利益	706	354	△49.9%
経常利益	671	411	△38.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	486	257	△47.0%

営業利益増減（前年4-3月比）

(百万円)



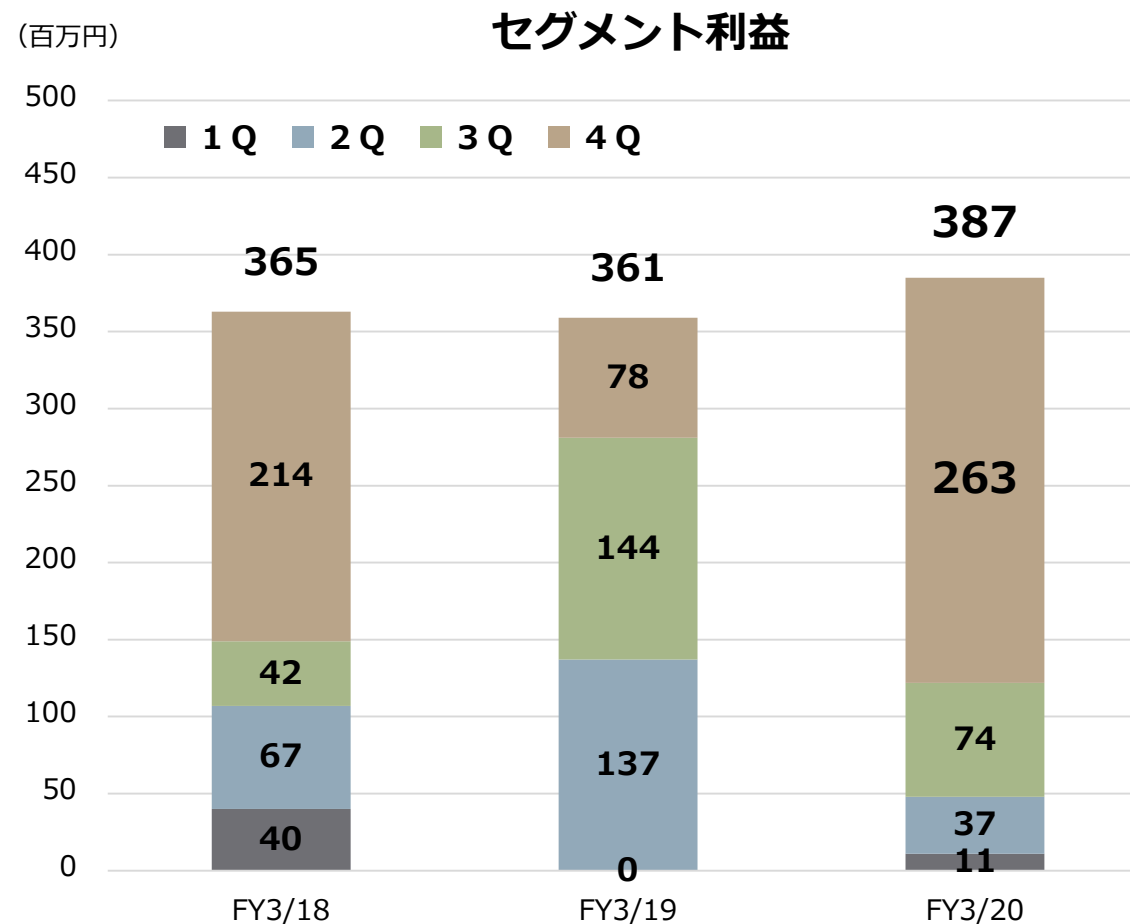
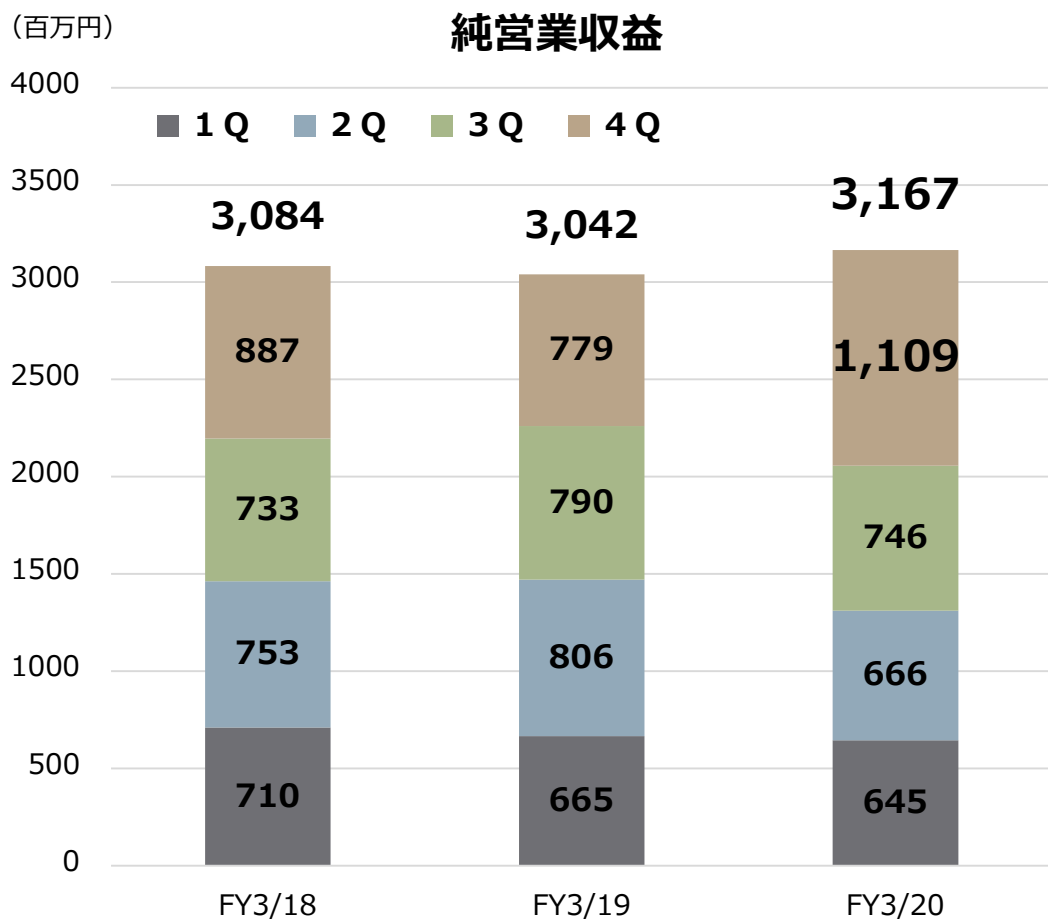
セグメント情報

国内金融事業

国内金融事業

うち、子会社 ICM
 純営業収益：1億3百万円
 セグメント利益：27百万円

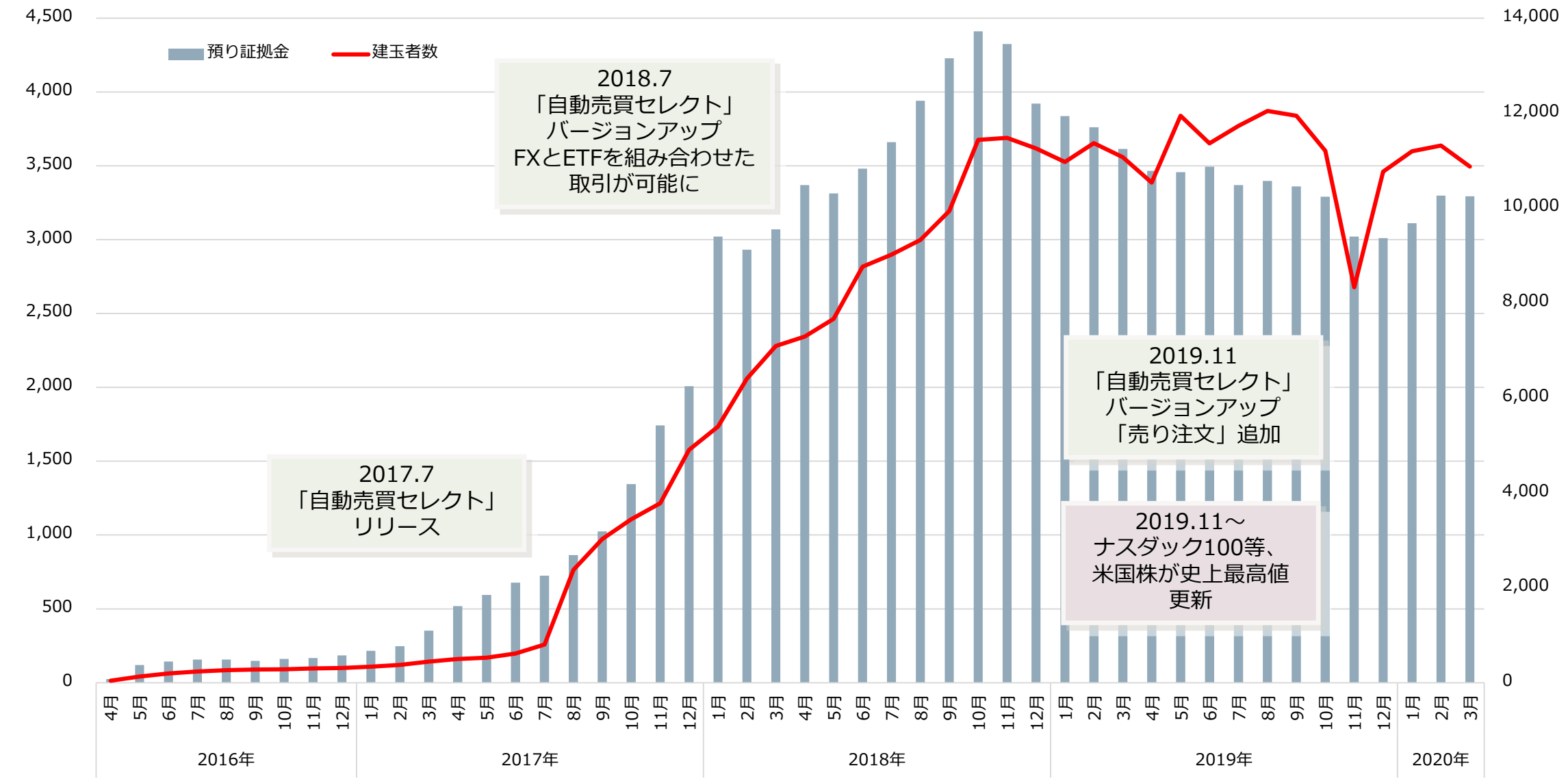
	当第4四半期	通期
純営業収益	前年同期比+42.4% 11億9百万円	前年比+4.1% 31億67百万円
セグメント利益	前年同期比+235.5% 2億63百万円	前年比+7.2% 3億87百万円



【店頭CFD】 預り証拠金・建玉者数

(預り証拠金：百万円)

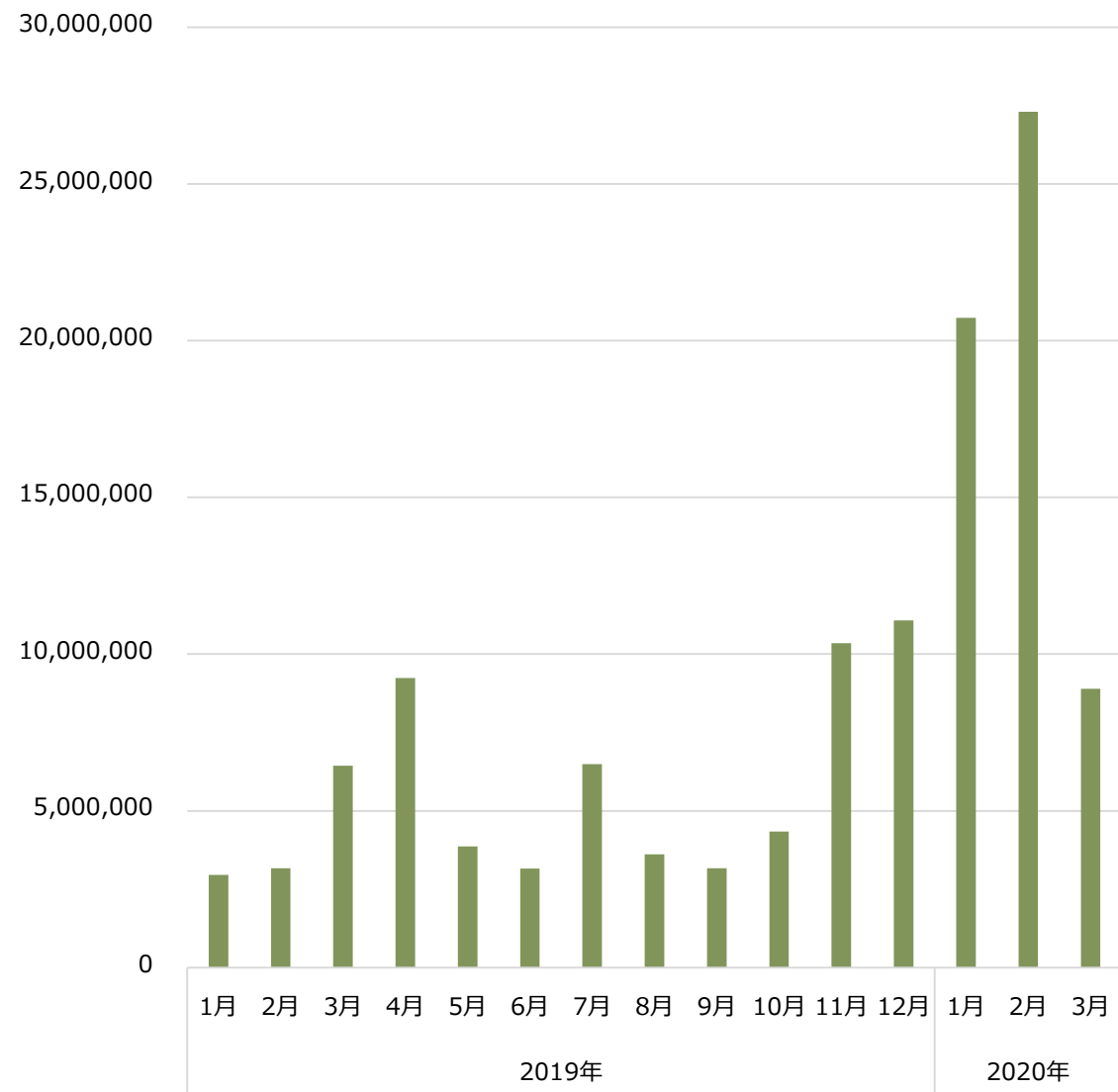
(建玉者数：人)



【店頭CFD/FX】取引高

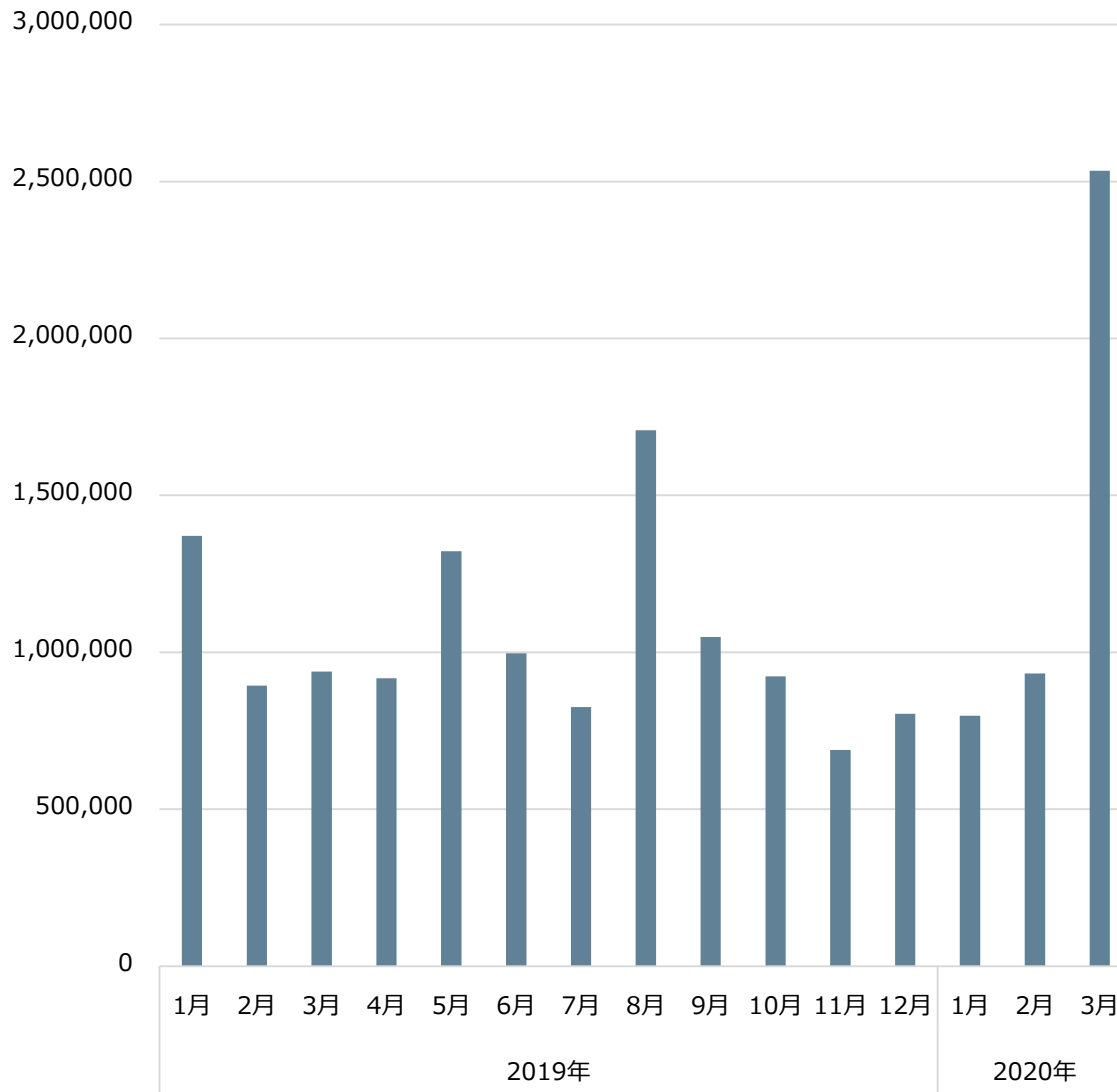
店頭CFD 「トライオートETF」

(約定代金：千円)



店頭FX 「シストレ24・トライオートFX・FX24」

(取引数量：万通貨)

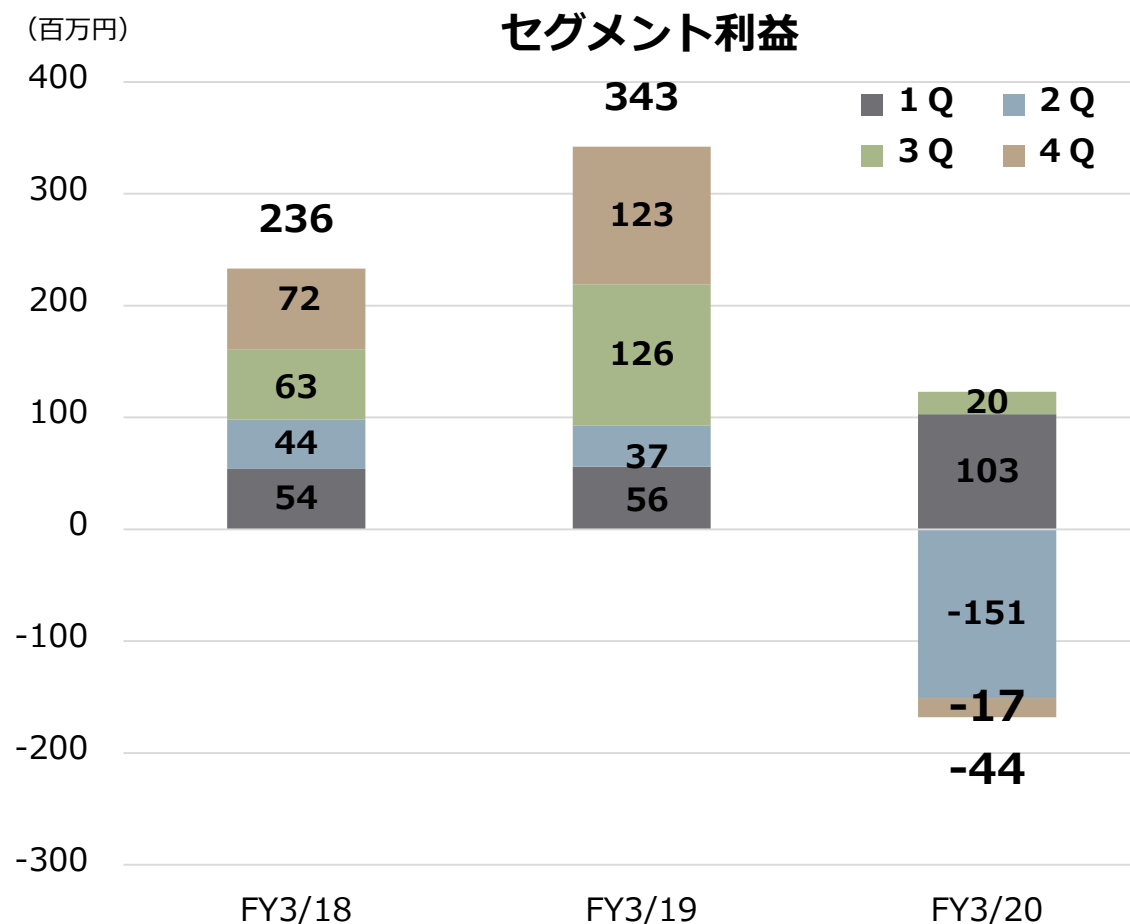
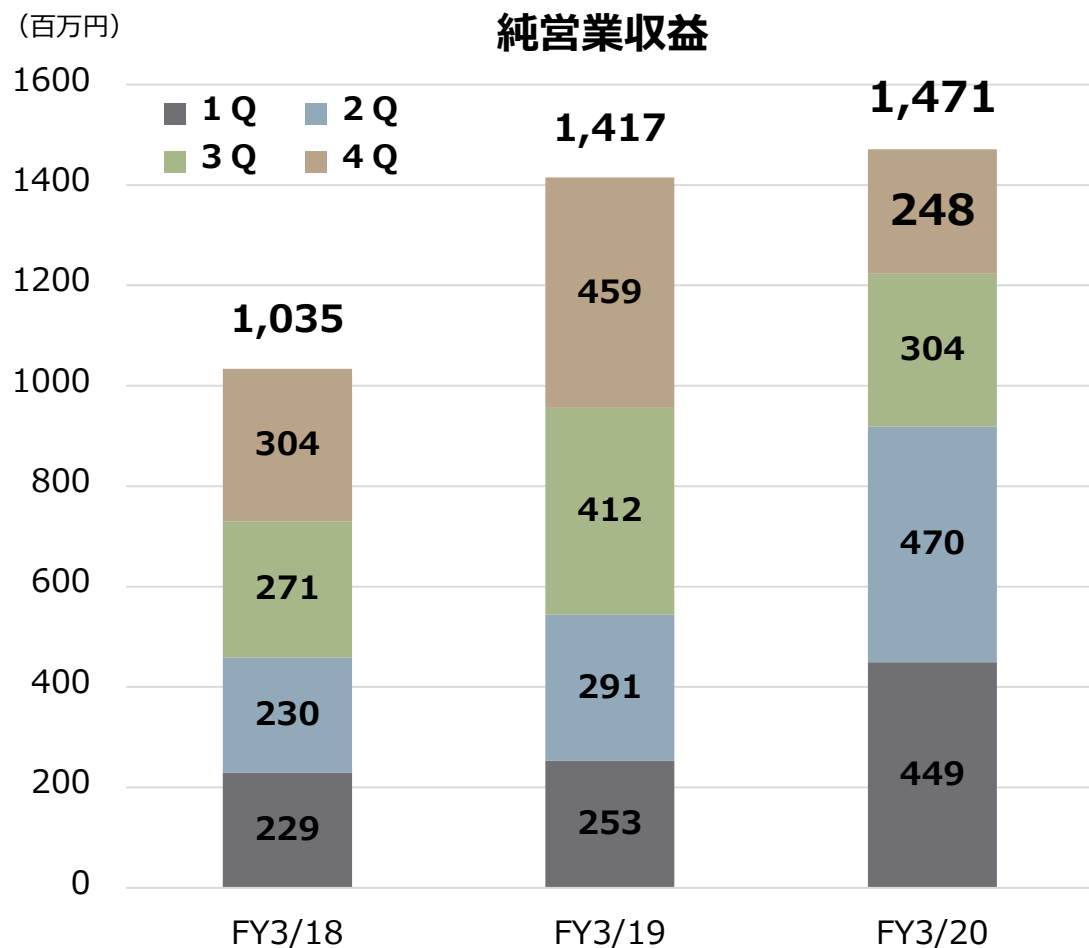


セグメント情報

海外金融事業

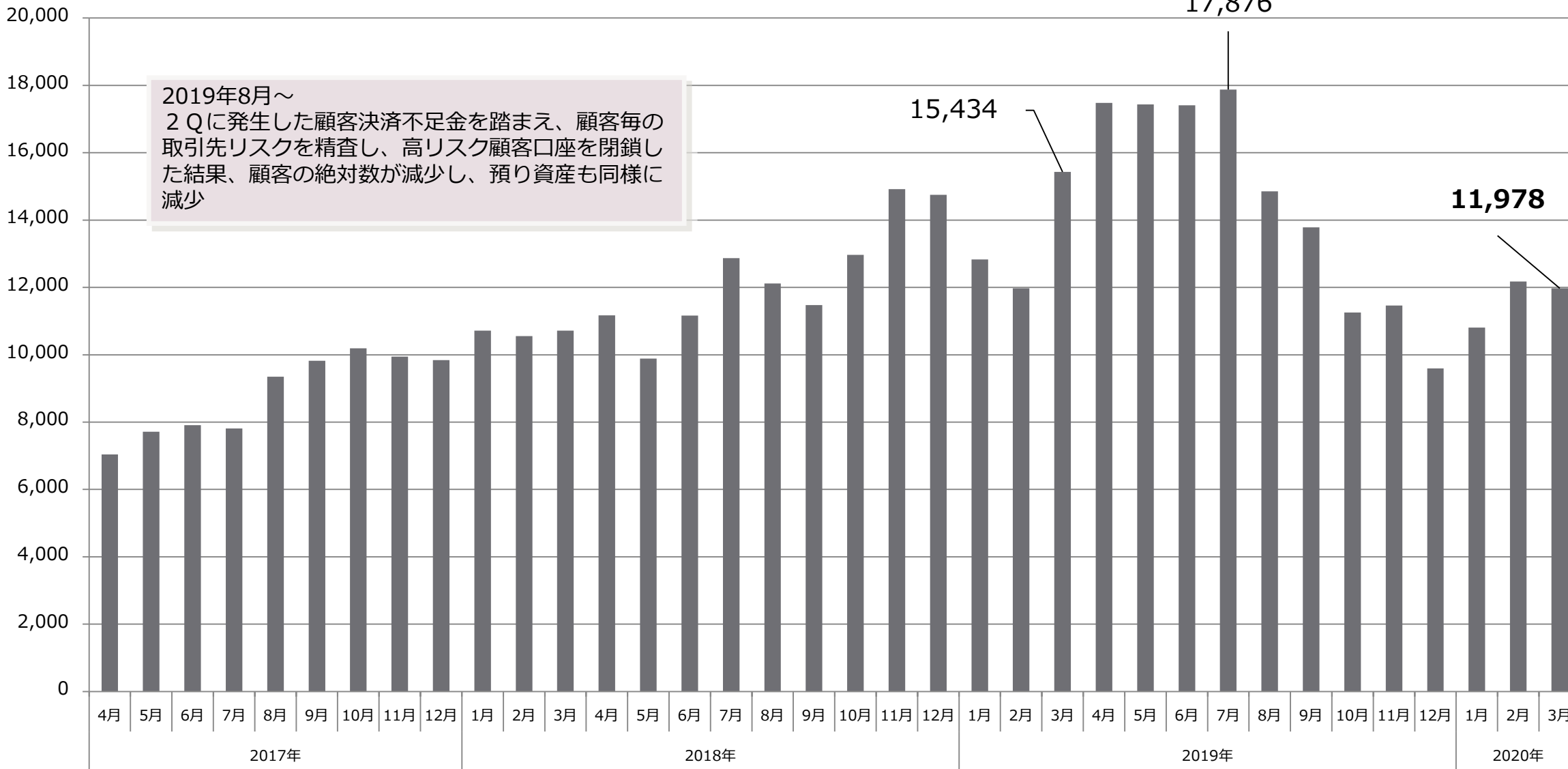
海外金融事業

	当第4四半期	通期
純営業収益	前年同期比△46.0% 2億48百万円	前年比+3.9% 14億71百万円
セグメント損益	セグメント損失 △17百万円 (前年同期はセグメント利益1億23百万円)	セグメント損失 △44百万円 (前年はセグメント利益3億43百万円)



【IFS】 預り資産推移

(万豪ドル)



經營目標・株主還元

重視する経営指標

当社グループは、収益の源泉であり、「お客様からの信頼の証」である**顧客口座数**、**預り証拠金**に加え、グループ全体の事業活動の成果を示す**連結経常利益**を重要視しております。また、企業価値の向上を目指し、株主資本を有効活用することが重要であるという認識のもと、**株主資本利益率（ROE）**を重要な経営指標として位置づけております。

	2019年3月期				2020年3月期			
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
経常利益（百万円）	72	162	251	184	110	△90	129	261

国内金融事業

預り証拠金：668億68百万円
顧客口座数：63万4,471口座

2020年3月末現在

※顧客口座数は、当社の累計開設口座数です。当社では、同一顧客による複数サービスの同時口座開設が可能となっており、サービス毎に1口座として集計しております。

海外金融事業

預り証拠金：11,978万豪ドル

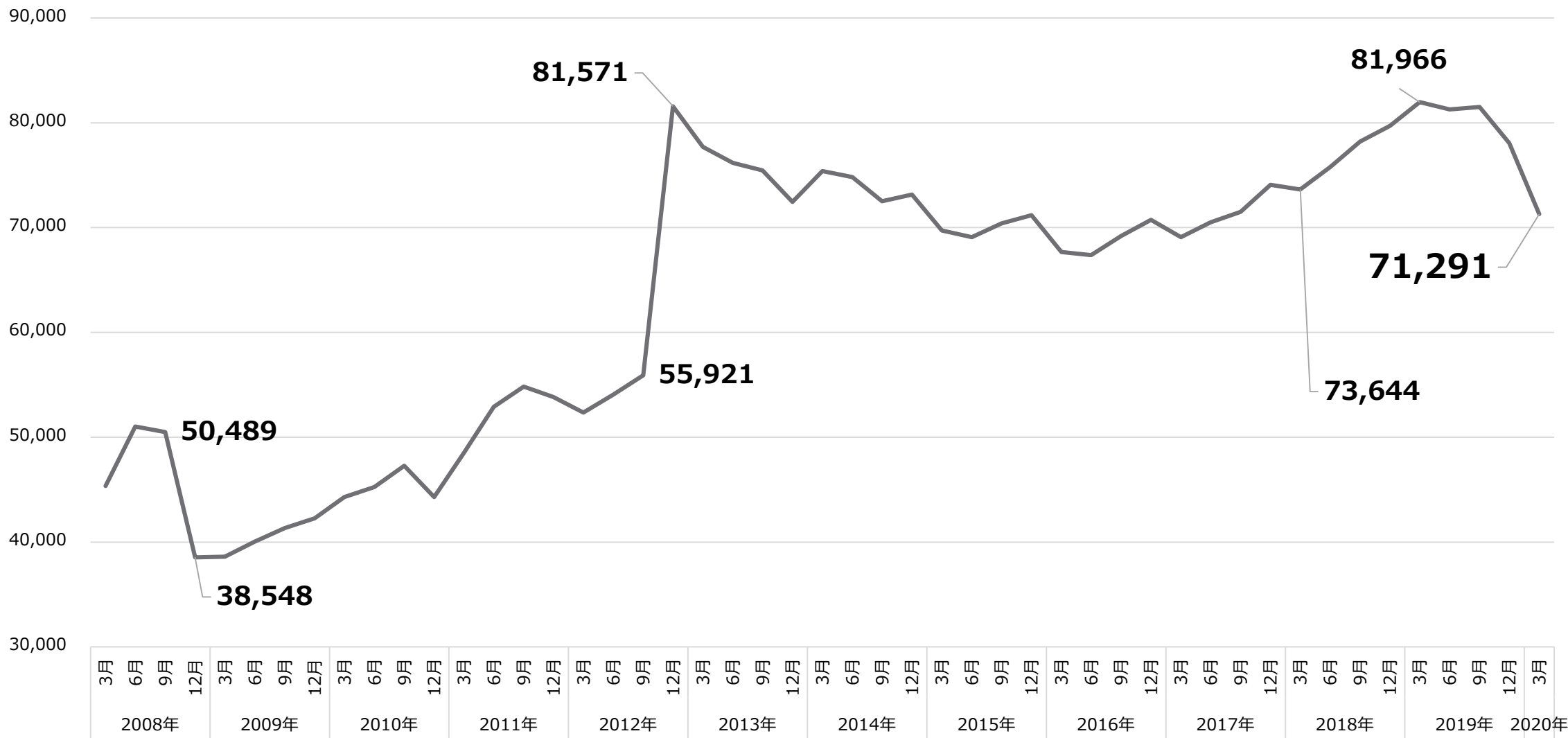
2020年3月末現在

	2019年3月期				2020年3月期			
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
ROE（%）	2.6	3.6	4.6	4.6	3.0	0.3	1.3	2.4

※ROEは、四半期純利益を年換算して算出しております。

【連結】 預り証拠金推移

(百万円)



(注) 連結子会社 I F S の決算日は12月31日となっているため、連結決算への数値の反映は発生から3ヶ月後となります。
2019年12月末の預り証拠金には、同社の9月末の実績を反映しております。

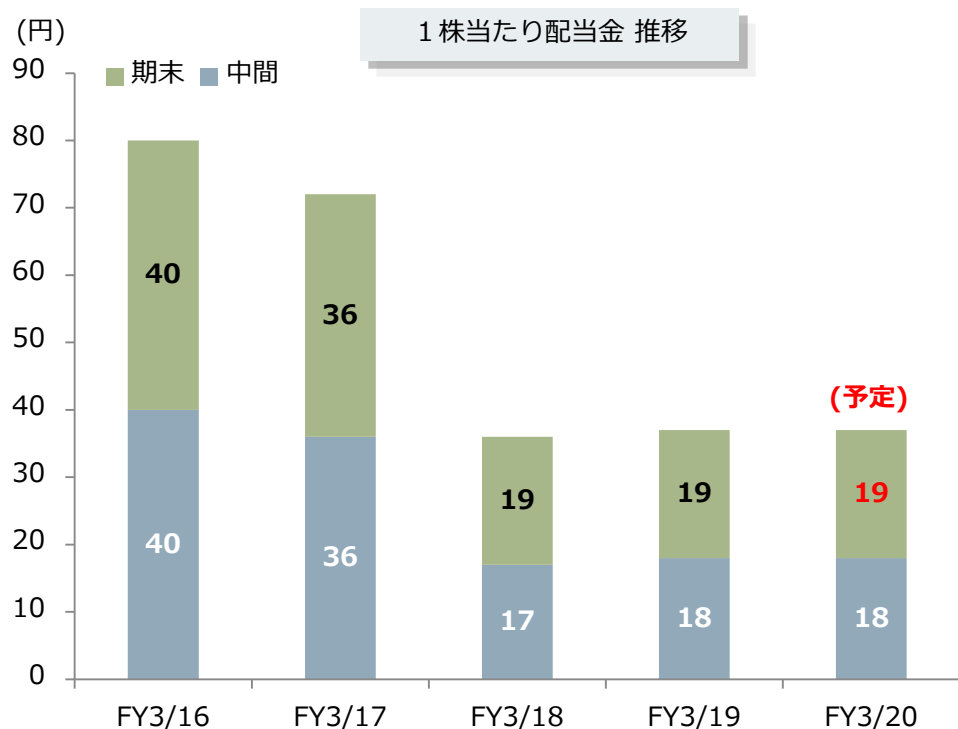
株主還元

◆配当方針（2018年3月期以降）

連結配当性向30%または連結純資産配当率（DOE）2%（年率）のいずれか高い方を目安とし、中間・期末の年2回の配当を実施

◆2020年3月期 配当

中間配当 18円 期末配当 **19円（予定）**



◆配当の実績

決算期		16/3月期	17/3月期	18/3月期	19/3月期	20/3月期
1株当たり 配当金額 (円)	中間	40.0	36.0	17.0	18.0	18.0
	期末	40.0	36.0	19.0	19.0	19.0
	合計	80.0	72.0	36.0	37.0	37.0
当期純利益 (百万円)		△404	△118	597	486	257
配当総額 (百万円)		469	422	211	217	217
配当性向 (%)		—	—	35.4	44.7	84.4
ROE (%)		—	—	5.8	4.6	2.4
DOE (%)		4.1	4.0	2.0	2.0	2.0
配当利回り (%) ※		5.9	5.5	3.4	4.2	6.8

※各年度末の終値で算出

Mission/Vision ・ 経営戦略

Mission 存在する目的

世界をもっと、良い場所にする

世界中の人々の金融面における課題を解決するソリューションを提供し、人々の幸せを通じて世界を「もっと良い場所」にする。私達の考える「もっと良い場所」とは、一生懸命働いている人が、ちゃんと豊かになれる世の中であり、優秀で、意欲のある学生が、お金を理由に未来の選択肢を諦めなくても良い世の中であり、どんな人でも、幸せになる為の資産形成が出来る世の中です。

私達のミッションは、世界中の人々が、それぞれに思い描く人生設計において、金融面の課題を解決するソリューションを生み出すこと、挑戦する人をサポートし、より多くの人々が人生を豊かにするためのチャンスをつかむ、お手伝いをすることです。金融という側面から、世界中の人々の幸せを通じて、より良い世界の構築に貢献していきたいと考えております。

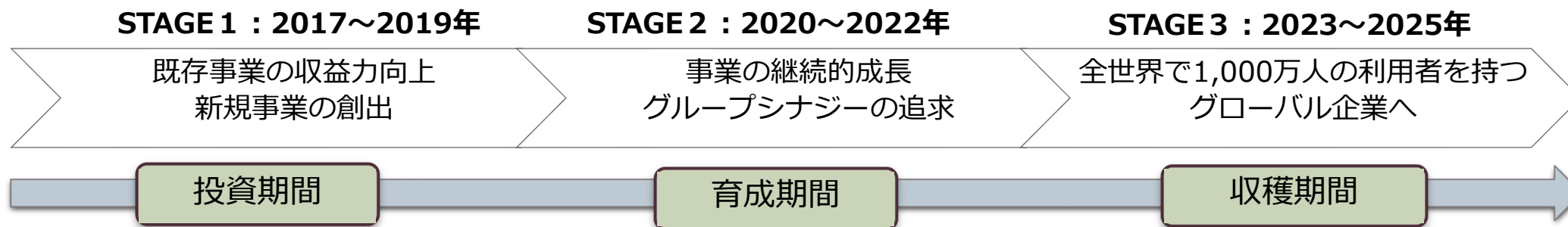
Vision 目指す姿

2025年までに全世界で1,000万人の利用者を持つ

金融ソリューションを生み出す

資産運用からスタートし、育児や教育、就職や結婚、資産形成など、世界中の人々の人生における様々な分野で、金融面の課題を解決するソリューションの創造を目指します。私達は、全世界から集まった優秀な人材が、日々、本物のプロフェッショナルとしての責任を果たし、ビジョン達成の為に議論し、決断を下し、実行に移す、世界中に顧客を持つグローバル企業になります。その第一歩として、2025年までに全世界で1,000万人の利用者を持つ金融ソリューションを生み出します。

ビジョン達成に向けた経営戦略



経営戦略 (STAGE1 : 2017~2019年)

① 既存事業の収益力向上

- ・ 独自の付加価値サービスの提供力強化 (テクノロジーを活用した自動売買ソリューション)
- ・ 高い収益性、成長が見込める事業への優先投資
- ・ システム統合、内製化等によるコスト構造改革

② 新規事業の創出

- ・ 新たなビジネス領域への進出、FX事業に次ぐ第2・第3の収益の柱を創る
- ・ 人々のお金に関する課題解決を軸とした事業模索
- ・ VCファンド出資を通じたM&A、事業提携等

③ その他

- ・ 企業ブランドの構築
- ・ グローバル展開に対応しうる優秀な人材の獲得、組織の人材基盤強化

2020年3月期の重点戦略 ~STAGE1「投資期間」最終年度~

国内金融事業

① トライオート事業の強化

- ・サービスの選択と集中、成長牽引事業へのウェイトシフト（リソース再配分）
- ・競争力の源泉として展開可能なトライオート事業に経営資源を集中投入し、収益モデルの改革を実行
- ・その他のサービスについては、今後の採算性等を判断軸に見極め

② 次期システムの構築

- ・取引サービス基盤としてAWSを利用（取引基幹システムのクラウド移行）
既に移行済みのコーポレートウェブサイト、取引システムに続き、顧客関係管理（CRM）、
帳票管理システム等々も順次移行予定

③ その他

- ・需要が見込める多様な商品ラインナップの拡充
- ・子会社ICMは安定的収益の継続確保に努めつつ、引き続きグループシナジーを模索
- ・強固なリスクガバナンスの確立（3つの防衛線、ITガバナンスの高度化）

海外金融事業

- ・顧客基盤の更なる拡大と収益力拡大
- ・世界をリードするノンバンクプライムブローカーとしてのブランド認知の向上

経営戦略の進捗状況（2019.4-2020.3月）

①既存事業の収益力向上

- ・トライオート事業の急成長に伴い、最大のボトルネックとなっていたシステム障害削減のため、オペレーションを見直し。取引量の急増にも耐えうるシステム体制を構築。
注文処理能力が大幅改善したほか、ITコストおよび管理費の削減も実現。
- ・上記システム体制の構築を待ち、下期以降は「自動売買セレクト」のバージョンアップ、ロジックの追加、変更等による収益強化策を実施。
- ・その他のサービスの統廃合について意思決定
取引所CFD取引「くりっく株365」のサービス終了を決定（他社へ事業譲渡）。※2020.8月終了予定
店頭FX取引「FX24」のサービス終了（「トライオートFX」に統合）を決定。※2020.7～8月を目途

②新規事業の創出

- ・AIシグナル配信サービス「MAi MATE／マイメイト」をリリース（内製開発）、今年夏頃の実取引化に向け準備中

③その他

- ・海外金融事業（子会社IFS）は顧客の決済不足金発生を受け、リスクモニタリング等の取引管理体制を強化

STAGE1 「投資期間」 2017～2019年の振り返り

2017年（2018年3月期）

- ・元手資金ゼロから始める積立投資「マネーハッチ」リリース
- ・FXに次ぐ主力事業として「トライオートETF」が成長、世界株ETFの自動売買サービスを確立
- ・アジャイルな内製開発体制構築のため、即戦力となるITエンジニアを多数グローバル採用、IT開発チームを組成

2018年（2019年3月期）

- ・自動売買セレクトのバージョンアップ（ETF×FX自動ポートフォリオ作成が可能になる）等、注力サービスであるトライオート事業への成長投資を実行
- ・海外金融事業（子会社IFS）の顧客開拓が順調に進み、セグメントベースで3期連続となる増収増益を達成
- ・不動産プロジェクトファイナンス事業会社（現子会社ICM）を新規連結、ブローカレッジ収益とは異なる収益源の確保等が目的

2019年（2020年3月期）

- ・内製開発によるAIシグナル配信サービス「MAi MATE／マイメイト」をリリース
新たな収益基盤の構築を目指す
- ・ITロードマップに基づくシステム体制の構築（継続中）

インヴァスト証券の会社概要 (2020年3月31日現在)

■ 会社名	:	インヴァスト証券株式会社 (INVEST SECURITIES CO.,LTD.)
■ 所在地	:	東京都中央区東日本橋一丁目5番6号
■ 設立年月日	:	1960年8月10日
■ 資本金	:	59億6,508万円
■ 上場取引所	:	JASDAQ市場 2006年3月6日 証券コード : 8709
■ 代表者	:	代表取締役社長 川路 猛 (かわじ たけし)
■ 主要な事業	:	金融商品取引業 (第1種/第2種/投資助言業) 関東財務局長 (金商) 第26号
■ 加入取引所	:	東京金融取引所

- 本資料に掲載されている情報は、当社グループの事業の情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料に記載されている情報には、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述には、様々なリスクや不確定要因が伴うため、現実の結果が将来の見通しに関する記述に含まれる内容または将来の見通しに関する記述で示唆されている内容と大きく変わる可能性があります。
- 本資料に掲載されている情報の正確性については万全を期しておりますが、その時点で提供可能な情報であり、その完全性、正確性、適用性、有用性等いかなる保証も行っておりません。
- 掲載された情報に基づく判断については、利用者の責任のもとに行うこととし、当社はこれにかかわる一切の責任を負うものではありません。